

第11回

TTMフォーラム九州

WEB
開催

先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度はコロナウィルスの影響により中止となりましたTTM フォーラム九州ですが、今年度はWeb(Live配信)で開催致します。諸事ご多用のことと存じますが、ご参加の程よろしくお願い申し上げます。

先生方のご参加を心よりお待ちしております。

2021
10.16
Sat



参加希望者は下記より事前登録をお願いします。

下記URLまたはQRコードより事前参加の登録手続きをお願いいたします。

<http://gjm.pw/ttm1016r>



日時 | 2021年10月16日(土) 14:00～16:30

終了時刻は講演状況により前後いたします

開催方法 | WEB開催 (Live配信)

参加費無料。インターネット環境があれば自宅やオフィスからご視聴いただけます。

代表世話人 | 佐賀県医療センター好生館 検査部
平野 敬之 先生

当番世話人 | 済生会日向病院 臨床検査室
寺原 孝弘 先生

特別講演 | COVID-19における血栓症と血液凝固異常症

[演者] 朝倉 英策 先生 (金沢大学附属病院 高密度無菌治療部)

教育講演 | 自信を持って検査データと向き合うために

～凝固線溶検査のデータ保証～

[演者] 下村 大樹 先生 (天理よろづ相談所病院 臨床検査部)

共催: TTMフォーラム九州
株式会社LSIメディエンス

講演要旨

特別
講演

COVID-19における血栓症と血液凝固異常症

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の死因としては呼吸不全が最も多いが、過剰な免疫・炎症反応いわゆるサイトカインストームを伴った凝固活性化、血栓症や播種性血管内凝固 (DIC) 発症、多臓器不全への進展も死因となる。

COVID-19におけるDICの合併率は、生存例では0.6%であるのに対して、死亡例では71.4%と報告されている (Tang N, et al: J Thromb Haemost, 2020)。しかし、DICの病態は敗血症に起因する線溶抑制型DICとは異なっており、一部の症例では線溶亢進型DICに一致した所見を示す (Asakura H, et al: Int J Hematol, 2021)。また、重症例では、ごく短期間に凝固線溶病態が激変することがある。

COVID-19の治療は、画一的な治療を行うのではなく、病態に応じて治療方法を使い分ける方向性が望まれる。

金沢大学附属病院 高密度無菌治療部

朝倉 英策

教育
講演自信を持って検査データと向き合うために
～凝固線溶検査のデータ保証～

凝固線溶検査の用途は多岐にわたるため、凝固線溶検査のデータ異常から病態把握ならびに要因を同定するには経験を要する。

それに加えて、日常検査で遭遇するデータ異常には、検体量の過不足、検体凝固 (フィブリン析出) および薬剤の影響などにより引き起こされる異常、いわゆる“偽りの異常”がある。この偽りの異常を誤って報告してしまうと、診断・治療に影響を及ぼし、臨床に多大な迷惑をかけるため、第一にこれらによる異常であるか否かを判別することが重要となる。

今回、「自信を持って検査データと向き合うために～凝固線溶検査のデータ保証～」と題し、偽りが起こすデータ異常を提示し、それらを捉える方法を述べ、凝固線溶検査のデータ保証について、皆さまと一緒に最適な手段について考えていきたい。

天理よろづ相談所病院 臨床検査部

下村 大樹